

NGNの新展開 「データコネクト」 帯域確保型データ通信の活用方法

NGNの新しい展開について2回にわたり分析する。今回は帯域確保型データ通信「データコネクト」は企業ユーザーにとって、どのような利用価値があるのかを徹底検証する。

文 今井恵一(社団法人テレコムサービス協会 政策委員会委員長)

NTT東西は2010年6月1日から、NGN(フレッツ 光ネクスト)の新サービスである帯域確保型データ通信「データコネクト」の提供を開始した。これまで企業ユーザーにとって新しいNGNのサービスと言え、高精細なテレビ会議ぐらいであった。そこに新たなデータ通信サービスが提供されたわけである。

このデータコネクトがどのようなもので、企業ユーザーはどのような使い方をすればいいのかを検証した。

企業ユーザーにとってのNGN

NGNの特徴と言え、「QoS」「安心・安全」「オンデマンド」などであり、商用サービス開始前には企業ネットワークのWAN構築のための新たな選択肢として大いに期待されていた。

しかし、実際に2008年3月に商用サービスが始まってみるとBフレッツ

で提供されていたサービスとの差はあまりなく、企業の情報システム担当者や企業ネットワークの構築を請け負うSIerからは落胆の声も多く聞かれた。

商用サービスが開始されてから2年あまりが経過したが、その間に開始されたサービスについても、従来にない新たなサービスとして注目されたのはハイビジョンクラスのテレビ会議システムなどごく限られたものであった。

結局、NGNは従来の電話網を置き換えるネットワークであり、サービス開始前に期待したような企業ネットワークの新たなインフラとして使えるようなものとは認識されなくなった感があった。

NGNが従来の電話網を置き換え

るためのネットワークであるという位置付けはある面では正しいが、IPベースで構築されたネットワークであり、当然電話(すなわち音声)だけではなく映像もデータも流すことができるネットワークである。事実、フレッツ 光ネクストのサービス名で提供されているNTT東西のNGNでは、図表1に示すようなデータ通信サービスが利用可能である。

しかし、「ビジネスイーサ ワイド」は広域イーサネットのサービス、「フレッツ・VPNゲート/ワイド」は技術的には「ISP接続」と同様にPPPoEを使ったベストエフォートのIP-VPNサービスであり、これらのサービスをNGNの範疇に入れることにはかなり抵抗がある。

また、「フレッツ・キャスト」のベストエフォートサービスでもデータ通信は可能だが、NTTの局舎内接続であるSNIの通信サービスであり、最低でも月額80万円(100Mbpsシングルル

図表1 2010年5月までのNGNにおけるデータ通信サービス

分類	サービス名	サービスの概要	
イーサネットサービス	ビジネスイーサ ワイド	広域イーサネット通信	
VPN	フレッツ・VPN ゲート	ベストエフォート	センタ-エンド型
	フレッツ・VPN ワイド		CUG型/センタ-エンド型
コンテンツ配信向けサービス	フレッツ・キャスト	ベストエフォート	ユニキャスト配信 マルチキャスト配信 <small>ユニキャスト通信の付加機能として提供</small>
ISP接続	—	ベストエフォート	ISPのGWルーターとの間をPPPoEで接続

出典:NTT東日本/NTT西日本のホームページなどの情報から作成

今井恵一(いまい けいいち)



NECに入社以来、交換システムの開発、IPv6などインターネット関連の技術マーケティング、企業向けオフィスソリューションの企画などを手がける。2006年よりテレコムサービス協会での活動を始め、現在は政策委員会委員長として、NGNの利活用や接続ルールなどを中心に積極的な政策提言を行っている。